

山本かずや 議員

(一問一答方式)



- ①子育て支援策について
- ②上下水道事業について
- ③学校プールについて
- ④施設予約システムについて

産後ケア事業について

**問** 本市で実施している産後ケア事業の利用料について全国的には無償化する自治体もあるが、本市でも子育て支援策の一つとして無償化してはどうか。また、これまでの利用実績はどうか。

**答** 利用実績としては、開始初年度である令和3年度は、日帰り型サービス3回の利用にとどまりましたが、令和4年度は9組の母子が宿泊型サービスを延べ15回、日帰り型を延べ14回利用し、今年度は10月末現在で実利用が7組で、宿泊型が延べ16回、日帰り型が延べ3回の利用があり、年々利用者が増加しています。産後ケア事業は産婦人科医院において通常の診療やお産の空きベッドを利用して実施されているため、今後は、産婦人科医院や助産院での受け入れ体制の確保が課題となります。関係機関と十分に相談しながら、訪問型のサービスの導入など、様々なニーズに応じたサービスの充実を図っていきたいと考えています。

利用料については、現在、その1割を利用者負担としています。宿泊型サービスでは1日3,000円、日帰り型サービスの利用では2,000円となっており、この利用料には、宿泊型では3食分、日帰り型でも2食分の食事代が含まれるため、実質的に食事代相当分の負担となっています。市が実施する他の事業でも食事代相当は実費負担としているため、引き続きお願いしたいと考えています。

水道スマートメーターの導入について

**問** 水道スマートメーターは、水道使用量をデータ通信によって自動検針できるため、天候や立地にかかわらず現地に検針に行かなくても日々検針が可能となる。また、漏水等の異常を早期に発見できる利点もある。まずは導入に向けた実証実験から検討し

てもらいたいが、いかがか。

**答** スマートメーターの導入により、検針困難箇所の解消や誤検針、誤入力防止など検針業務等の省力化や効率化が進むとともに、宅内漏水の早期発見なども可能となり、利用者サービスの向上が期待できます。その一方で、導入費用や通信費用が高額となること、安定的な通信の確保、メンテナンスの問題など、維持管理の検証も必要となります。これらのことから、今後は活用できる補助制度や導入自治体の研究、通信網の比較検討など、スマートメーターの試験導入に向けて必要な情報収集等を行っていきたいと考えています。

施設予約システムについて

**問** 来年度からのコミュニティセンター化を見据え、施設予約システムとスマートロックの実証実験として、公民館、体育館の利用予約をオンラインで行い、メールで届く暗証番号で施設の鍵が使用可能となるなど、手続きのスマート化が図られているが、その経過と課題、今後の方針をどう考えているか。

**答** 実証実験では、予約システムで取り扱った施設利用の予約数は、窓口対応者による代理予約も含め延べ327団体、1,460件分であり、スマートロックでは252件分の利用となっていますが、特に大きな問題は発生していません。

課題としては、まずは操作を行うスマートフォンが苦手な方などへの対応があります。これについては、従来の窓口での手続も残しながら、代行して手続を行うといった運用により対応できると考えています。また、使用料金の支払いに関するオンライン決済を望む声も寄せられており、オンライン決済の導入に向けた検討を進めています。さらに、地域によってコミュニティセンターとなる施設の管理の実情が異なるため、画一的な導入は難しく、それぞれの地域の実情に応じて導入を判断する必要があると考えています。

今後の施設予約システム及びスマートロックの導入には、実証実験の結果を踏まえながら、利用者の利便性向上やセキュリティーの強化、管理の負担軽減を図る方向で各自治会とも相談しながら協議調整していきたいと考えています。